

# れんが造りのトンネル残そう

れんが造りのトンネルの前で情報交換する「愛岐トンネル群保存再生委員会」と「ケヤキの道」の会員



## 安曇野の廃線敷をNPOが訪問

愛知・岐阜県境の旧JR中央西線で、れんが造りトンネルの保存に取り組むNPO法人「愛岐トンネル群保存再生委員会」の3人がこのほど、れんが造りの漆久保トンネルが残る安曇野市明科東川手の旧篠ノ井線廃線敷を訪れた。周辺の整備に取り組む地元の潮沢区民の有志でつくる団体「ケヤキの道」と情報交換。観光への活用や歩行者の安全確保策、行政との連携について意見を交わし

た。

委員会は、13のトンネルが残る高蔵寺―多治見間の廃線敷を後世に残そうと、募金を使って民間所有者から買い取る運動に取り組む。一方、篠ノ井線の廃線敷はJRが旧明科町に払い下げた経緯があり、安曇野市が2本のトンネルの安全調査や修繕工事を手掛け、検査も続けている。ケヤキの道の会長を務める小林忠孝さん(72)は「地域活

性化のために整備してもらったが、観光客が増え過ぎ、ト

イレとごみの問題が出るなど戸惑っている面もある」と紹介。委員会副理事長の村上真善さん(58)は「愛知県春日井市」は「これから観光地を目指す私たちには幸せな悩み」と話した。

委員会は来年、旧信越本線・碓氷峠(群馬県安中市)など全国各地でれんが造りトンネルの保存に取り組む団

体が情報共有する「サミット」を構想中。小林さんは「同じ課題を持つ仲間がいて心強く思った。会員に相談し、参加を検討したい」と話していた。